

## 「飛鳥川」

1) 万葉のふるさと飛鳥をもっとも象徴的に示している一つに「飛鳥川」がある。

・「飛鳥川」は奈良県中央部に位置する明日香村の南部に隣接する高取町の山奥に発して北流し明日香村の中心部を流れ、大和三山の間を西北に流れ、藤原京域を斜めに横切り、奈良盆地の西部に位置する河合町（北葛城郡河合町河合）きたかつらぎぐんで奈良県や大阪府を西流し最後に大阪市（住之江区）と堺市の間から大阪湾に注ぐ大和川に合流する延長約25キロメートルの河川である。

2) 飛鳥川は古くから歌に詠まれることが多く「万葉集」にも25首あり、このうち21首に「明日香」の文字が用いられている。

3) 飛鳥川は上流部は豊富な水量で中流部は水が少ない涸川かれがわのようになるが、下流部では再び水量が豊かになる。

・万葉集には飛鳥川の静かな清流と荒々しい川の様相を詠った次の歌がある。

1) 今日もかも 明日香の川の  
夕さらず かはず鳴く瀬の  
さやけくあるらむ

卷三―356 作者；上古麻呂 かみのこまろ

(解説)

今日もまた、明日香の川の、いつも夕方になると、かわずの  
鳴くあの瀬は、すがすがしく清らかに流れていることである  
うか。

この歌はかわずの鳴き声の聞こえる静かな清流を詠みこま  
れている。中流部の歌であろうか。

2) 今行きて 聞くものにもが

はるさめ

明日香川 春雨降りて 激 たぎ

と

つ瀬の音を

卷十一―1878 作者不詳

(解説)

今行って聞きたいものだ。春雨が降って激しく流れる明日香川の瀬の音を。

・たとえば春雨とはいえ、いったん雨が降れば激流になり、川の様相も一変する程、荒々しさを見せることが詠みこまれている。上流部か或いは下流部の歌であろうか。

(参考文献) 新潮日本古典集成「万葉集」・「万葉集を知る事典」・「明日香村史」等

(写生地) 奥飛鳥の入口「坂田地区」から棚田で有名な「稲渚地区」の村内を流れる飛鳥川を描く。(池田杏花)

